

甲斐市立竜王西小学校 自己評価書

令和5年2月8日（水）作成

校長 「立川 武」 記述者 職名（教頭）「飯塚 正規」

学校教育目標 「自ら学び、自ら考え、進んで行動する 心豊かでたくましい児童の育成」

学校経営方針

「21世紀を担う人間性豊かで、社会の変化に対応できる生きる力の育成」をめざし、学校教育の充実に努める。

- （1） 確かな学力・豊かな心・健やかな体の調和のとれた教育活動を推進する。
- （2） 全ての子どもたちが、「わかる」・「できる」ことが実感できる、楽しい授業づくりをめざす。
- （3） 全職員の協働体制「チーム竜西小」の教育活動を推進する。
- （4） 家庭・地域と信頼し合い、安全で安心な開かれた学校づくりに努める。

1 全体評価

○全ての項目においてA（とてもそう思う）またはB（そう思う）が最頻値であり、ABを合わせた回答は、Ⅲ4を除きすべて9割を超えていたことから学教教育目標の具現化に向けて、やるべき教育活動を、まじめに一生懸命に、「チーム竜王西小」として行っている。

○児童アンケートから、各質問や学校生活全般・人間関係に関わる質問への回答では、肯定的な回答（AB）が多く割合を占めている。具体的なものとしては、肯定的な回答（AB）が、No.1「学校は楽しいですか」89.1%（昨年+1.4）、No.2「クラス（学年）に仲の良い友達がいいますか」96.8%（昨年比+2.5）、No.3「人がこまっているときは、進んで助けていますか」91.2%（昨年比-0.1）No.20「家の人と学校での様子を話していますか」82.1%（昨年比+1.3）、No.23「だれとでもあいさつしていますか」89.1%（昨年比+1.7）である。それぞれの項目で多くの児童は、昨年度より楽しい学校生活を送っている様子がわかる。

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標に関して・学校経営について

達成状況 学校教育目標に関して・学校経営についての自己評価4設問中すべてにおいて、肯定的評価（A・B）が100%となった。1「あなたは、学校経営方針や学校教育目標に基づいた教育活動を行っている。」を除きすべての設問がAの数値がBより大きい結果となった。また、昨年度と比較して、相対的にA評価の数値が高かった。さらに、4「あなたは、PDCAサイクルを生かした、教育活動を行っている。」について否定的評価であるDが昨年度は3.6%あったことに対し、今年度は0%であった。

改善策 自己評価1「あなたは学校経営方針や学校教育目標に基づいた教育活動を行っている。」の設問には、肯定的評価（A・B）で100%となっているものの、A評価は48.1%となっていて、昨年度のA評価53.6%より低い値である。これは、コロナ禍における教育活動に様々な制限があったからだと考えられる。限られた条件の中で、工夫しながら教育活動に取り組む必要がある。

II 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）

達成状況	<p>自己評価では、7設問中4設問で肯定的評価（A・B）が100%となった。4『あなたは、職務上「報告、連絡、相談、確認」を行っている』という設問に対して、昨年度はC評価が3.6%であったが、今年度は、肯定的評価（A・B）が100%となった。これは、今年度「報告、連絡、相談、確認」の徹底に力を入れた成果だと考えられる。特に、1「あなたは、危機管理マニュアルを理解している。」は、昨年度よりA評価の数値が向上している。ここから、コロナ禍において校長の指導の下、教職員の危機管理意識がさらに向上していることがわかる。特に、1「あなたは、危機管理マニュアルを理解している。」は、昨年度よりA評価の数値が向上している。ここから、コロナ禍において校長の指導の下、教職員の危機管理意識がさらに向上していることがわかる。保護者アンケート1「お子さんにとって、学校は楽しいところだと思う。」が90.7%、6「授業参観や学校開放日などは、子どもの様子を知る機会になっている。」86.8%、8「学校は熱心に授業に取り組んでいると思う。」86.6%などの学校運営に関わる質問に対して肯定的評価（A・B）が85%以上の数値を得ている。これらは、コロナ禍の制限が多い現在の状況においても、学校運営に対して、保護者が好意的に理解を示していることと捉えることができる。また、ICTを取り入れたことで、保護者の授業への評価が高まったと考えられる。</p>
改善策	<p>自己評価5「あなたは、校内研究（研修）に主体的に関わっている。」、6「あなたは校務支援システムを十分活用できている。」、7「あなたは、業務の効率化等の働き方改革を意識して職務にあたっている。」という設問に対して、C評価がそれぞれ11.5%、3.8%、7.7%であった。今後の取り組みとして、校内研究会や教職員の研修を通じて、授業と学級経営の充実を目指す。また、ICTやユニバーサルデザインを取り入れた、「自他を尊重し、生き生きと学び表現する児童の育成」の達成を目指していく。さらに、教職員のタイムマネジメント能力の向上を目指して、具体的な改善策を検討していく。</p>
<p>Ⅲ 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）</p>	
達成状況	<p>自己評価では、7設問中4設問において、肯定的評価（A・B）が100%である。残りの4「あなたは、ICTを効果的に活用した授業を行っている。」以外すべてが、90%以上の肯定的評価（A・B）を得ており、概ね達成できている。このことから、主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善に取り組んでいることがわかる。保護者アンケートでは、9「お子さんは授業がわかっていると思う。」という設問に、肯定的評価（A・B）が81.1%であり、昨年度よりも6.7%高い評価を得ている。児童アンケートから、すべての質問において、昨年度より肯定的評価（A・B）が増加した。8設問中、6設問の肯定的評価（A・B）が85%であった。特に、8「外国語の授業は好きですか。」の設問の増加率が最も高く、昨年度より11.2%の増加であった。</p>
改善策	<p>自己評価4「あなたは、ICTを効果的に活用した授業を行っている。」において、C評価が15.8%であった。一人一台端末の導入により、ICT活用の充実が必須となってきたが、教職員間での技能差が著しい。そのため、ICT担当を中心とした研修や情報共有をさらに進めていく。家庭学習については、毎月のはじめの8日間を家庭学習強化週間（各自の学習の様子の振り返る）として保護者の協力を得ながら実施しているが、このことを継続していく。</p>
<p>Ⅳ 生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）</p>	

達成状況	生徒指導について自己評価は、6設問中、5設問について肯定的評価（A・B）が100%となった。4「あなたは、キャリア教育を児童生徒の実態に応じて行っている。」も肯定的評価（A・B）94.2%の肯定的評価を得ており、概ね達成できている。保護者アンケートでは、生徒指導に関わる設問すべてにおいて、概ね達成できている。特に、6「あなたは、安全な登下校が出来るよう安全指導に努めている。」において、肯定的評価（A・B）95%となり、昨年度より2.2%高い数値となった。
改善策	自己評価において、4「あなたは、キャリア教育を児童生徒の実態に応じて行っている。」の肯定的評価（A・B）が、100%ではなかったため、子どもたちと触れ合う中で、キャリア教育にアプローチしていくように努めていきたい。基本的な生活習慣や家庭における時間の利用内容（学習・読書に費やすかスマホ・ゲームに費やすか）については、家庭や保護者の影響が大きいので、家庭・保護者や児童に向けた学習会や各種通信の発行などによる情報発信や啓発を継続的に行っていく。
V 地域との連携について	
達成状況	地域との連携についての自己評価5設問中4設問で、肯定的評価（A・B）が100%であった。1「あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。」も96%の肯定的評価（A・B）を得ており、概ね達成できているが、Cが1名いる。昨年度も同じような傾向であったことから、感染症対策による規模の縮小や中止の影響も考えられる。それ以外にも現在西小でお願いしている地域の人材や施設の活用が定番化しており、新規で実施することが少ないためにこうした傾向が出ていることも考えられる。定番の人材や施設であってもその授業を受ける児童は毎年変わっていることを念頭に、教員の意識がマンネリ化しないようにしていく。No.3「あなたの学校は、学校の教育活動について、たよりやホームページを通して保護者や地域に広報している」については昨年度（A63%、B37%）に比べAが増加している。これは、今年度校長をはじめ担当学年などが、積極的にホームページを通じ学校の情報を発信した成果だと考えられる。
改善策	地域との連携においては、1「あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。」のC評価が4.0%であった。コロナ禍では、地域における学校の役割は、大変重要であり、地域の願いを汲んだ教育活動が求められている。そのために、県のいきいき教育地域人材活用推進事業による米作りや野菜作りの指導を継続的に行い、今後も児童の学習に大いに生かしていく。さらに、保護者や地域の要望に迅速かつ丁寧に対応するために、ホームページや学校だよりを積極的に活用していく。
VI 学校の特徴に関して	
達成状況	どの項目についても肯定的な回答である。また、どの項目についてもA回答の数値が高いことから日常的に学校の特徴づくりを意識した教育活動が進められているといえる。No.1「あなたは児童が進んで挨拶をするよう、指導に努めている」については、63%の教員がA、残りの37%がBと回答している。一方で、保護者アンケートではNo.20「学校は、子ども達に学校以外でも挨拶をするように指導しているか」で約17%の保護者が否定的な回答をしていることから、教職員の「指導しているという意識」と保護者・地域の方が「学校が指導をしている」と感じるところに差があることがわかる。教職員と保護者・地域の方の間をつないでいる児童の変容にしっかりと目を向けることで、この差を埋めていけるようにする必要がある。授業参観や学校開放については、教職員の自己評価だけでなく保護者アンケートでも85.6%を超える肯定的な評価を得ていることから、感染症対策をしながら児童の姿を保護者や地域に開くことができているので今後も継続していけるようにする。

改善策	「甲斐っ子の宝」（心をそろえる整理整頓、心を磨く清掃活動、心を伝えるさわやかなあいさつ）の取り組みを継続していくことで、引き続き基本的な生活習慣（あいさつやマナー）の確立と規範意識の向上を図っていく。
VII 創甲斐教育について	
達成状況	3つの項目とも 100%肯定的な回答であったことから、創甲斐教育を念頭に置いた学校教育が展開できているといえる。No.1「読書活動に取り組むよう、指導に努めている」については昨年同様肯定的回答が 100%で、保護者アンケートにおいても、8割を超える保護者が、学校は読書活動に力を入れていると回答している。本校では週2回朝読書の時間を設定しているのでこうした時間を利用した指導をしているからであると思われる。
改善策	今後も、本校にある「すこやか委員会」の機能（生徒指導と支援教育）やスクールカウンセラー他、外部機関との連携をいかして、全校体制による組織的な取り組みの実施と、教職員の指導力の向上に努める。また、「きずなの日」を有効利用し、児童教師のつながりを深めることや家庭・地域からの情報を積極的に取り込んで活用を図り、望ましい人間関係の構築を進めていく。
<h3>3 まとめ</h3> <p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の自己評価では、すべての項目において、肯定的評価（A・B）が高く、全体的に達成できている。全教職員が学校教育目標に向かい、校長の学校経営方針の下に共通理解をして教育活動にあたっていることが確認できた。児童・保護者アンケートにもその成果が反映されていた。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつに対して、保護者アンケートからの学校と保護者の意識の差が見受けられた。それぞれの立場を共有する為に、学校・保護者・地域がより一層連携していく。 ・ICT活用や授業改善などの今日的課題に、教職員全体で取り組むと共に、今回の結果を踏まえ、学校・保護者・地域との連携を図りながら、日々の教育活動の充実に努めていく。 	